



Young Ophthalmologists Committee Hot Topics !



Instagram

学会シンポジウムと国際化の促進

日本眼科学会戦略企画会議第二委員会
Young Ophthalmologists Committee

YOC コラムの連載も、今回で5回目となりました。YOCは2023年2月の発足以降、メンバーの増員・入れ替えもあり、現在計15名で毎月webミーティングを開催し、さまざまな活動に取り組んでいます。YOCの活動のテーマは、若手医師を中心とした「日本の研究の促進と国際化の加速」が目標です。具体的な活動の一つとして、2023年10月の第77回日本臨床眼科学会(臨眼)からYOCシンポジウムを企画し、第1回のYOCコラム(第128巻10号)でその内容を紹介させていただきました。今回は2024年以降のYOCシンポジウムを中心に、最近のYOC活動内容について、今後の予定を含めて紹介させていただきます。

第2回YOCシンポジウム 第78回臨眼(2024年11月)

千葉大学脳神経内科学准教授(現東京科学大学脳神経内科学教授)の三澤園子先生を京都にお招きし、ご登壇いただきました。三澤先生はご自身の研究および医局長としての医局運営を、育児と両立されながら精力的に活動され、さまざまな学会などで講演をされている実績のある方です。「アカデミアをupdateする?!」というタイトルで、近年の働き方改革が日本のアカデミアの研究力低下にどのような影響を及ぼしているか、現状の大学病院・医局制度の課題について問題提起していただき、今後どうすればアカデミアで人を集め、



写真 1

第78回日本臨床眼科学会(臨眼)のYOCシンポジウム。左下は器械展示会場のYOCブース。



写真 2

第129回日本眼科学会総会での食事会。Shizuo Mukai 先生(前列左から3番目)と YOC メンバー同。

残していくのかを考えるためのきっかけを与えていただきました。三澤先生の特別講演後に YOC メンバーが登壇し、働き方改革の中でのモチベーションの維持、若手から見た医局の変革の必要性といったテーマについて、異なる立場からの意見を発信し、それぞれの問題点について今後の解決策を考える形で討論を行いました。討論後の質疑応答でも活発な議論が行われ、参加者にとって大変貴重な経験となりました。また、臨眼の会期中は、器械展示会場に YOC ブースを設置させていただき、研究・留学などに興味のある若手医師を中心に YOC メンバーと交流の機会を設けました(写真1)。

■ 国際化の促進：海外眼科医との交流

YOC では海外で活躍されている日本人の眼科医師とも積極的に交流を図っています。長年米国に在住され、小児の網膜硝子体手術を専門とされているハーバード大学眼科教授の Shizuo Mukai 先生と、2025年2月に web ミーティング、また 2025年4月の第129回日本眼科学会総会(日眼総会)の会期中に会食をさせていただき機会がありました。Mukai 先生は米国で小児網膜手術診療を指導される立場にあり、眼科医の教育システムの日本と米国の違い、臨床と研究の両立、米国の眼科での surgeon としての立場、診療報酬の制度、日本における課題点などについて、さまざまなことを教えていただき、非常に貴重な経験となりました(写真2)。

こうした機会の延長として、今後 YOC メンバーだけでなく、日本の眼科全体において次世代を担う若手

眼科医のリーダーシップ・国際的な視野を持つ人材の育成を目標として、Japan YOC-Leader development program(LDP)を 2025年10月の臨眼から開始しています。第1回 LDP では Willis Eye Hospital で小児網膜手術を専門とされる Yoshihiro Yonekawa 先生をお招きし、日本の若手眼科医との交流の機会を設けています。今後 LDP は年1回、臨眼の会期に合わせて定期的に開催することを計画しています。

また、若手眼科医による学術コミュニティである YO は、海外においては日本以上に精力的に活動し規模の大きい国が多く、アジアを中心とした海外 YO との交流が非常に重要と考えています。Asia-Pacific Academy of Ophthalmology(APAO)での YO session, Global YO summit, 日中韓ジョイントミーティングなどに、日本の YOC メンバーが積極的に参加し、海外 YO と交流を図っています。これらの活動についても、今後の YOC コラムでも機会があればご紹介させていただきます。

眼科 ONLINE SESSION FOR NEXT GENERATION 2025

眼科に興味のある医学部の学生・初期研修医を対象とした眼科の魅力を紹介する啓発イベントで、ここ数年 YOC メンバーも講演させていただいています。2025年6月の今回も YOC リード役の橋本りゅう也、鈴木文那、高橋洋平、アドバイザーの田中 寛が演者・コメンテーターとして参加しました。学生や初期研修医に眼科を勧めるポイントは何か、ということを変更して



写真 3

眼科 ONLINE SESSION FOR NEXT GENERATION 2025. 実行委員長の外園先生を中心に、各講演者の先生方と YOC メンバー。

考えてみることで、自身の眼科医としてのやりがいや再確認する貴重な機会となりました。今後、今回のイベントを参考にして、若手眼科医が興味を持ち集まる機会を YOC 主体でも企画し、眼科という分野全体やアカデミアの魅力について考える場を提供したいと考えています(写真 3)。

第3回 YOC シンポジウム 第79回臨眼(2025 年 10 月)

前回までの YOC コラムでご紹介したように、YOC では短期の他施設への見学を支援する若手医師国内交流プログラムを2024年度から開始しています。2025 年の臨眼での YOC シンポジウムで、冒頭に2024 年度の第 1 回のプログラム参加者 10 名のうち 5 名の先生から実際の見学の報告を行っていただいています。2025 年度の第 2 回プログラムについても 7 月中に募集を行っており、今後の YOC シンポジウムや YOC コラム内で参加者から結果を報告していただく予定です。

特別講演では、近畿大学皮膚科学教室主任教授の大塚篤司先生をお招きしています。大塚先生は医学領域における Chat GPT の活用方法に造詣が深く、皮膚科領域での学会主導での研究の促進活動で中心的な役割を担われています。『愛のままにわがままに 研究は君

を傷つけまくる』というタイトルで、ご自身の経験をもとに、研究を行っていくうえでのモチベーションの維持・海外留学の意義などについてご講演いただいています。本シンポジウムは、オンデマンド配信で視聴可能となっているので、現地参加できなかった方はぜひとも視聴いただければと思います(写真 4)。

今後の企画予定

2026 年頃からの企画として、海外の YO リーダーや、日本人の研究の第一人者にオンラインで若手眼科医向けに講演いただく YO Online Lecture Series を開催します。正式な講演者や日時が決まったら、ホームページや Instagram などでも情報を発信する予定です。

また、2026 年以降、臨眼だけでなく日眼総会でも YOC 企画のシンポジウムを開催する機会をいただき、準備を行っています。2026 年 4 月の第 130 回日眼総会(福岡)では、大阪大学名誉教授の仲野 徹先生をお招きする予定です。仲野先生は幹細胞研究を専門とする生命科学者で、著書や各所の講演で研究についてとても面白く語られており、現地で拝聴するのがとても楽しみな内容になると思います。

以上のように YOC はメンバー一同、さまざまな活



2025年 第79回日本臨床眼科学会
YOCシンポジウム
研究っておもしろい？なんでや？
-教えて、アカデミアの先輩たち！
10/11 (土曜) 8:40-10:00

Part 1. 第1回若手医師国内交流プログラム実施報告

				
瀧澤 廣輝 東北大学	利根川直也 慶應義塾大学	駒井清太郎 京都府立医科大学	田中 一史 東邦大学佐倉病院	鈴木 真聖 浜松医科大学

Part 2. 特別講演
『愛のままだにわがままに 研究は君を傷つけまくる』
大塚 篤司 先生
近畿大学医学部皮膚科学教室
主任教授

FOLLOW US!!
Website QR Code Instagram QR Code

写真 4

第79回臨眼のYOCシンポジウム告知スライド。国内交流プログラム実施報告と、大塚篤司先生による特別講演を行います。

動を精力的に行っています。研究や国際化に関してモチベーションの高い若手眼科医を中心に、日本の眼科全体を盛り上げたい！という思いで活動しています。

今後もしばしばご支援やご協力をよろしくお願いします。

(文責：高橋洋平)